

市民と市役所が

ツナガル通信

発行日：平成 29 年 2 月 22 日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎 2 階（月～金、9:00～17:00）

TEL：086-803-1062/070-5055-7589

- >> 地域活動リーダー研修会
- >> 平成 28 年度市民協働推進モデル事業
ご紹介 Vol.6



Vol.21

地域活動リーダー研修会を開催しました！

地域への期待が高まる一方で「活動の担い手がない」「行事のマナー化」など地域リーダーの悩みは尽きません。元気で持続可能な地域づくりの具体的な 1 歩を踏み出すために「地域活動の棚卸しと地域ビジョンの作り方」の研修を開催しました。主に地域で活躍されている地縁団体のリーダーが参加され、今ある行事を見直し、来年度以降の地域ビジョンを改めて考える機会となりました。夏祭りやぐらを組む若者が少なくなったため思い切って盆踊りをなくしたという高梁市宇治の事例や、地域の雪かき、庭木の剪定、お墓の維持管理などを地域の中で立ち上げた NPO 法人が運営する津山市知和の事例を共有しました。リーダー達は他地域の手法を学んだり、懸念事項をシェアしたり、登壇者に質問したりとお互いが学び合う場となりました。

開催日時・場所	平成 29 年 1 月 28 日（土）13:00～17:00 場所：岡山市役所本庁舎 第3会議室
参加者	23 名（地縁団体 20 名、市議会議員 1 名、教員 1 名、その他 1 名）
満足度	82.6 点
講師	地域行事の棚卸し事例紹介：中曾まゆみさん（宇治地域まちづくり推進委員会／高梁市） 町内会で NPO を設立した事例紹介：國米彰さん（知和自治団、NPO 法人スマイル・ちわ／津山市） 宇治地域の棚卸しをサポートした進行役：阿部典子さん（NPO 法人みんなの集落研究所）
アンケートからの感想を抜粋	（良かった点）「共通の悩みが分かり、それに対する対応の仕方も研修の中で分かってきた」「他地域のやり方を知ることができた」「努力が必要だが、勇気をもって思いきってやめてみる」 （気づいた点）「当たり前を見直す」「行事の棚卸しを今までやろうと思っていた」 （取入れたい点）「地域での NPO 法人設立を考えたい」「とりあえずやってみよう」「地域で本気で語り合う場を設けたい」「人材発掘するには、それぞれが出来ることをする」 （課題）「(全体の)時間が少し長い」「自分の地域の行事の棚卸しをきちんと行う必要がある」
研修会の様子	

お知らせ

●市民協働のパネル展を開催します。

岡山市役所本庁舎 1 階市民ホールにて 3 月 30（木）～31 日（金）に市民協働のパネル展を開催します。市民協働推進モデル事業や、第一回おかやま協働のまちづくり賞、ESD・市民協働推進センター紹介等を展示する予定です。是非お立寄り下さい。

岡山市各課と市民（NPO法人、市民活動団体等）が共通の目標達成に向けて、力を合わせて市内の課題解決に取り組む「市民協働推進モデル事業」の平成28年度採択事業の取り組みをご紹介します。

『中学生が地域の大学生、保護者と交流するキャリア教育授業のモデル化』

特定非営利活動法人だっぴ × 教育委員会事務局指導課・教育委員会生涯学習課

中学生が、地域の大人（保護者）や大学生と交流することで、自身の価値観を広げ、自己肯定感を高めるキャリア教育プログラム（中学生だっぴ）をつくり、社会に展開させていくことを目的としています。中学生だっぴは中学生が「夢」や「勉強する意味」などのテーマについて大人や大学生と本気で語り合い、多様な生き方や価値観に触れることで、他人との違いを肯定できるようになったり、人生の新しい目標を見つけるなど、これまでのキャリア教育にはない、新しい効果を生みだしています。

今年度は市内4校で中学生だっぴを実施する計画となっており、現時点で足守中学校（平成28年6月）、瀬戸中学校（7月）、中央中学校（平成29年1月）で中学生だっぴを実施しているほか、2月25日には吉備中学校での実施が予定されています。3校で実施されたアンケートでは中学生の「大人になること」や「働くこと」に対する期待が大きく高まっており、学校関係者や参加者から高い評価を得ているほか、「ESD 岡山アワード2016『岡山地域賞』」を受賞するなど、社会からの注目も高まっています。

協働のすすめ～岡山市職員インタビュー～

教育委員会事務局指導課教育支援室 一守 和弘さん



Q1：協働を通じて、どのような成果がうまれていますか？

「だっぴ」の活動は、地域の人たちに子どもたちのことを知っていただく絶好の機会になっています。「中学生だっぴ」に参加していただくと「中学生がんばっているね！」「子どもたちを応援したい」など感じていただけたのではないのでしょうか。

暴力行為、不登校の抑制や学力の向上などが、現在の岡山市の課題であることは確かです。しかし、それらが取り上げられるだけでは、様々な目標に向かって頑張っている子どもたちが、活動や思いを認められていると感じられず、自己肯定感の低下に繋がりがかねません。自分たちのがんばりを、大人に認めてもらえたという実感を持つことは、とても大切なことだと考えています。中学生だっぴは、そんな時間でした。

Q2：想定外の成果はありましたか？

意外だったのは、参加された大人の方への効果です。仕事や社会貢献への熱い思いや、ドラマティックな人生の経歴に、驚きながらも興味深く子どもたちは聞き入っていました。大人になると、自分の仕事に関する思いや、これまで歩んだ人生で学んだことなどを人に伝えたり、関心を持って聞いてもらったりする機会はほとんどありません。参加された方々の表情がすごく充実し、満足感に満ちていた様子が強く印象に残りました。

Q3：これまでの協働事業の成果や課題をふまえて今後の展望を教えてください。

市教委としては、学校での他の行事などの計画も考慮して、授業の時間を圧迫することなく、市内のどの学校でも、ニーズに合わせて平日に開催できるようになることを期待します。普段の教育活動に集中するためにも、事前に大人を集めるなどの負担が軽減できるようになれば助かると思います。「中学生だっぴ」を体験した学校の先生たちが、プログラムをいろいろな形にアレンジするなどして指導に活かしていけることを期待しています

子どもたちの教育活動への協働の輪が、子どもたちが愛されていると実感できる家庭、学校園及び地域社会を巻き込みながら、自立する子どもの育成の推進に向けて広がっていくことを期待しています。